

ユニット	■ 題材名 ● 教材 ・ 参考教材 オリエンテーション または <追加教材>	時数	題材の目標	A 表現						B 鑑賞					
				(1)歌唱			(2)器楽			(3)創作			(1)鑑賞		
				ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
A	オリエンテーション: ガイダンス及び2年生の復習 校歌 他	1	歌詞の内容や曲想の変化を味わい、箏の基礎的な奏法や平調子の響きを生かした表現を工夫しよう												
	■ 歌詞の内容や曲想の変化を味わって ● 花 p.4 ● 荒城の月 p.14 ● 荒城の月(山田耕筰 補作編曲) p.75 ・ Let's Try! 指揮をしてみよう p.16	3		◎				◎			◎				
	器楽: 箏 p.36~37 奏法(押し手) < 荒城の月 p.36 > < 平調子の響きを生かして「荒城の月」の前奏をつくってみよう p.37 >	2													

評 価 の 観 点

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
歌詞の内容や曲想、箏の基礎的な奏法、平調子の特徴に関心をもち、音楽表現を工夫しながら歌ったり演奏したり旋律をつくったりする学習に主体的に取り組もうとしている。	音域に応じた声の音色、歌詞と関係するリズムや拍子、速度の設定と変化、主旋律と他の旋律、平調子の響き、強弱の設定と変化、旋律の反復、二部形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を味わい、箏の基礎的な奏法や平調子の特徴を生かして音楽表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したり旋律をつくったりするかについて思いや意図をもっている。	歌詞の内容や曲想、箏の基礎的な奏法や平調子の響きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌ったり演奏したり旋律をつくったりしている。	

<参考> 題材の学習展開のイメージ

年度始めのオリエンテーションを1時間設定します。その後、歌唱共通教材「花」「荒城の月」「荒城の月(山田耕筰 補作編曲)」を取り扱い、歌詞の内容や曲想などを生かして表現を工夫します。また、参考教材を用いて指揮の活動を取り入れることが可能です。また、器楽の学習として「荒城の月」を箏で表現し、創作の学習として「平調子の響きを生かして『荒城の月』の前奏をつくってみよう」では箏の基本的な奏法や平調子の響きを生かした旋律づくりを行います。

ユニット	■ 題材名 ● 教材 ・ 参考教材	時数	題材の目標	A 表現						B 鑑賞										
				(1)歌唱			(2)器楽			(3)創作		(1)鑑賞								
				ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ア	イ	ウ						
B	■ 音楽の構造と曲想との関わりを理解して ● ◎ポレロ p.24 ● ◎組曲「惑星」から第1曲「火星」 p.27	3	リズムや旋律の特徴を聴き取り、音楽の構造と曲想との関わりを理解して鑑賞しよう																◎	○
評価の観点																				
音楽への関心・意欲・態度				音楽表現の創意工夫				音楽表現の技能				鑑賞の能力								
音楽の構造と曲想との関わりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。												楽器の音色、繰り返されるリズム、主旋律と対旋律、二つの主題とその現れ方、強弱の設定、音楽全体の構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽の構造と曲想と関わりを理解して、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している。								
<参考> 題材の学習展開のイメージ																				
主題やリズムの反復に着目して、鑑賞教材「ポレロ」「組曲『惑星』から第1曲『火星』」を取り扱います。この2曲を比較鑑賞し、リズムや拍子の特徴を聴き取り、音楽のよさや美しさについて自分の考えを述べる活動によって、より主体的な鑑賞となるように工夫することができます。																				

ユニット	■ 題材名 ● 教材 ・ 参考教材 オリエンテーション または <追加教材>	時数	題材の目標	A 表現						B 鑑賞					
				(1)歌唱			(2)器楽			(3)創作		(1)鑑賞			
				ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ア	イ	ウ	
C	■ 言葉の特性や曲想を生かして ● 帰れソレントへ p.10 ● Top of the world p.12	3	言葉の特性や声部の役割を理解し、曲想を味わいながら表現を工夫しよう	○	◎		◎								
	器楽:リコーダー p.16～19 アーティキュレーション <大きな古時計 p.16> <ブランデンブルグ協奏曲第2番から第2楽章 p.18>	3		○											
評 価 の 観 点															
音楽への関心・意欲・態度			音楽表現の創意工夫			音楽表現の技能			鑑賞の能力						
曲想や言葉の特性、声部の役割と全体の響きとの関わりに関心を持ち、それらを生かして歌ったり演奏したりする学習に主体的に取り組もうとしている。			声やリコーダーの音色、シンコペーションのリズム、拍子、Moderato、Allegro、旋律のまとまり、同主調転調、強弱の変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、曲想や言葉の特性、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、それらを生かした音楽表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いや意図を持っている。			曲想や言葉の特性、声部の役割と全体の響きとの関わりを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌ったり演奏したりしている。									
<参考> 題材の学習展開のイメージ															
「帰れソレントへ」「Top of the world」で、日本語・イタリア語・英語のそれぞれの言葉の特性を理解し、転調やビート感などを感じ取って表現を工夫します。器楽教材「大きな古時計」「ブランデンブルグ協奏曲第2番から第2楽章」では、主旋律の表れ方や声部の重なり方などを生かして、アンサンブルで表現します。															

トピック	■ 題材名 ● 教材 ・ 参考教材	時数	題材の目標	A 表現						B 鑑賞								
				(1)歌唱			(2)器楽			(3)創作		(1)鑑賞						
				ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ア	イ	ウ				
D	■ 郷土の民謡や芸能 ● 子守歌(ねんねこころろこ) p.18 ● 谷茶前 p.19 ● ◎くらしとともにあるさまざまな音楽 p.32	3	声の出し方を工夫して表現したり、声の合わせ方から特徴を聴き取り音楽の多様性を理解して鑑賞したりしよう		◎			○										◎

評 価 の 観 点

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
曲種に応じた発声や言葉の特性、曲想、我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と音楽の多様性に関心をもち、表現したり鑑賞したりする学習に主体的に取り組もうとしている。	様々な声の出し方による音色や響き、特徴的なリズムや拍子、言葉と関係する旋律のまとまり、強弱の変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、曲種に応じた発声や言葉の特性を理解し、曲想を味わって曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いや意図をもっている。	曲種に応じた発声や言葉の特性、曲想を生かした曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌ったり演奏したりしている。	さまざまな声の出し方による音色や響き、特徴的なリズムや拍子、用いられている音階、声や旋律の重なり方、強弱の変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している。

<参考> 題材の学習展開のイメージ

歌唱教材または器楽教材として「子守歌(ねんねこころろこ)」「谷茶前」を取り扱うとともに、鑑賞の学習では我が国や諸外国の声を合わせて表現する音楽を比較鑑賞し、表現と鑑賞の関連を図った学習を展開することができます。

ユニット	■ 題材名 ● 教材 ・ 参考教材	時数	題材の目標	A 表現						B 鑑賞					
				(1)歌唱			(2)器楽			(3)創作		(1)鑑賞			
				ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ア	イ	ウ	
E	■ 総合芸術に親しもう ● ◎ 「アイダ」から第2幕第2場 p.28 ● ◎ 能「羽衣」キリから p.33-① ● ◎ 文楽「義経千本桜」から p.36 ・ Let's Try! 能の音楽を体験しよう p.34	4	物語の進行を理解し、音楽と舞台が一体となって表現される総合芸術に親しもう					○						◎	◎

評 価 の 観 点

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
音楽の特徴と他の芸術との関連、我が国の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と音楽の多様性に関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。			各登場人物の声の音色や音域、地謡や囃子の音色、拍節の表れ方、速度の変化、各登場人物の旋律、旋律のまとまりや旋律装飾、各登場人物の旋律の関わり方や重なり方、声と伴奏楽器との関わり方や重なり方、強弱の変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽の特徴を他の芸術と関連付け、我が国の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している。

<参考> 題材の学習展開のイメージ

総合芸術であるオペラ、能、文楽を教材にして、物語の進行(場面)や登場人物の設定、音楽と舞台との関係などを理解し、それぞれの共通性や魅力を感じ取りながら鑑賞します。なお、『アイダ』から第2幕第2場では、見どころ聴きどころと思う場面とその魅力などについて考え紹介する活動を設定し、より主体的な鑑賞となるように工夫することができます。

ユニット	■ 題材名 ● 教材 ・ 参考教材 オリエンテーション または <追加教材>	時数	題材の目標	A 表現						B 鑑賞					
				(1)歌唱			(2)器楽			(3)創作			(1)鑑賞		
				ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
F	■ 混声合唱の深まり ● 時を越えて p.20 ● 旅立ちの日に p.22	4	歌詞の内容や曲想を味わい、声部の役割と全体の響きとの関わりを生かして表現を工夫しよう												
	歌のアルバム: <大地讃頌 p.76> <故郷(混声四部合唱) p.80>	3													

評 価 の 観 点

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
歌詞の内容や曲想、声部の役割と全体の響きとの関わりに関心をもち、音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	言葉のリズム、速度の設定とその変化、主旋律と他の旋律、主旋律と他の旋律との関係、和音、強弱の設定とその変化、リズムや旋律などの反復、変化、対照を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を味わい声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもっている。	歌詞の内容や曲想、声部の役割と全体の響きとの関わりを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。	

<参考> 題材の学習展開のイメージ

選択可能な複数の合唱曲を教材とし、学校行事(文化的行事や卒業式)などを意識した学習を展開します。生徒の実態に応じて、合唱曲を選択し、パート練習から全体の表現を工夫することができます。

ユニット	■ 題材名 ● 教材 ・参考教材	時数	題材の目標	A 表現						B 鑑賞				
				(1)歌唱			(2)器楽			(3)創作		(1)鑑賞		
				ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ア	イ	ウ
G	■ ギターの豊かな表現 ●◎ アランフェス協奏曲 p.38 ●◎ アランブラ(アルハンブラ)の思い出 p.39	3	ギターの表現の豊かさを聴き取り、協奏曲や独奏曲の表現を味わおう									◎	◎	

評価の観点			
音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりや、音楽の特徴とその背景となる文化・歴史との関連に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。			ギターやオーケストラの楽器の音色と響き、特徴的なリズムや拍子、速度の設定、各楽章の主題、ギターとオーケストラとの関係、ギターで同時に演奏する旋律と伴奏、強弱の設定、ソナタ形式、ロンド形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想と関わりや、音楽の特徴をその背景となる文化・歴史と関連付けて理解して、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している。

＜参考＞ 題材の学習展開のイメージ

「アランフェス協奏曲」「アランブラ(アルハンブラ)の思い出」を取り扱い、ギターの表現を味わい、音楽の特徴を聴き取る学習を展開します。ギター協奏曲の特徴を理解するとともに、スペインの民族楽器としてのギターの豊かな表現を味わうことができます。

ユニット	<p>■ 題材名</p> <p>● 教材</p> <p>・ 参考教材</p>	時数	題材の目標	A 表現						B 鑑賞							
				(1)歌唱			(2)器楽			(3)創作		(1)鑑賞					
				ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ア	イ	ウ			
H	<p>■ 言葉や旋律の繰り返しを生かして</p> <p>● CMソングをつくろう p.40</p> <p>● Let's Try! 楽曲全体の構成を調べてみよう「Let It Be」 p.42</p>	3	言葉のリズムや抑揚を生かし、旋律を繰り返して音楽をつくろう										○	◎			

評 価 の 観 点

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
言葉や音素材の特徴、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりに関心をもち、それらを生かして音楽表現を工夫して旋律や音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	言葉のリズム、言葉のリズムや抑揚と関係する旋律、旋律の反復、変化、対照による音楽の構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽で表現したいイメージをもち、言葉や音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図を持っている。	言葉や音素材の特徴、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて音楽をつくっている。	

<参考> 題材の学習展開のイメージ

創作教材「CMソングをつくろう」では、言葉のリズムや抑揚を生かして短い旋律をつくり、それを反復させて音楽を構成する学習を計画します。また、鑑賞の学習として「Let's Try! 楽曲全体の構成を調べてみよう『Let It Be』」で歌詞の繰り返しに着目して音楽の構成の仕方を聴き取る活動を設定します。